

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799100066		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島Ⅱ		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目2番30号 (1)		
自己評価作成日	平成26年5月13日	評価結果市町村受理日	平成26年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町4階		
訪問調査日	平成26年6月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医 月に20日以上は往診のため来館するスケジュール(1日一人診察)をたてている ・ほぼ毎日のため連携しやすい(相談や急変など臨時往診対応が速やか) ・看護師が常勤しており医療体制が確立している ・運営推進会議では多数の家族が参加され活発な意見交換を実施している ・災害担当スタッフを選出し偶数月(定期的)にミニ防災訓練や災害時の勉強会を実施している ・ビール・漬物会・コーヒ一会・カラオケ・張り絵など興味のあること好きなことで入居者間の交流が深まるよう工夫している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当グループホームは市内の住宅と工場が混在する地域に位置しているが、周辺は閑静で近隣に公園もあり、交通の利便性もよい環境にある。事業所は町会に加入し、地域の催しや公園清掃への参加、保育園への訪問その他、地域の一員として多彩な交流を行っている。利用者の日々の暮らしは、アセスメントをもとに介護計画に基づいた職員の支援が行われ、援助内容のモニタリング・評価を毎月実施し、サービス担当者会議と家族の意向も反映して計画の見直しを行うことで、本人本位のケアを深めるシステムの取り組みが十分に活かされている。ホームでの終末期対応は、家族と医療・看護・介護の緊密な連携により、居室での看取りも可能である。基本理念の「今までの暮らしがこの地域で普通に過ごせる、そんなグループホーム」に向けて、管理者と職員の実践が着実に育まれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入口目につきやすい場所に掲示、地域密着・法人理念・ホーム理念にすぐ戻れ確認できるようにしている	事業所理念を「今までの暮らしがこの地域で普通に過ごせる そんなグループホーム」と定め、玄関に掲示している。管理者は更に各ユニットにも掲示を予定しており、職員と共有し実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園を一緒に掃除、地域の防災訓練、町内運動会・神社への参拝や催しの参加・保育園との交流など「あ～お散歩ですか？」と気軽に声をかけて下さる関係ができています。	町会に加入しており、散歩や外出時に近隣の人と挨拶を交わしている。地域の行事や公園の清掃活動に参加し、近隣の保育園を訪ねたり、ドッグセラピーなどのボランティア訪問もあり、日常的に地域の一員としての多彩な交流が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所力として一緒にイベント参加にとどまり貢献まではできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平均参加家族→10人。行事、入居者状況、研修、事故・ヒヤリハット報告・スタッフ紹介、ご意見など地域代表・家族・事業所で「加島Ⅱを良くしよう」と意見交換している。	昨年度は6回開催し、地域代表、地域包括支援センター職員、家族、管理者・職員の参加で業務や行事、検討課題等の報告を行っている。特に家族の参加が多く積極的な意見、提案もあり有意義で双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内に4事業所あり代表で担当者が問い合わせをしている(体制ができています)	介護保険の更新申請代行や認定調査などで行政担当部署、社会福祉協議会との連携や、市内の系列事業所とともに、運営上の相談や問い合わせを行い、円滑な業務遂行に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限や拘束は認知症という病気に対しても特に適さず「じっとして下さい」や「立っては危険です」と言う対応も行動制限・拘束に値することを確認している	職員は研修や職員会議で身体拘束について弊害を理解し、日常のケアに活かしている。ユニット間は開放しているが、玄関は施錠している。外出希望には本人の意に沿うような対応に努めている。	玄関の施錠も指定基準の身体拘束禁止の対象行為であり、抑圧感は行動・心理症状を悪化させる要因との理解を共有し、見守り可能な時間帯で、力ぎを掛けない工夫の柔軟な支援の取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止に向けた施設従事者の為の自己チェックリスト」を作成し全スタッフへ提出してもらった。虐待までいかないが不適切なケアがあるか？施設でストレスがあるか？など防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な知識とは言えない。活用までは至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改正時 十分な説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も多く 運営推進会議への参加も多数な為 意見を伺える機会がある。食事形態、外出行事のあり方、入院先の病院の選択などさまざまな意見がある	運営推進会議に、毎回利用者の半数以上の家族参加があることや、介護計画見直し時の面会や電話などで、家族の意向や要望を聞く機会が多い。それらを会議で検討して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者、事業所スタッフでの食事会 ・事業所職員間での食事会 ・意見がやすいよう毎月アンケート作成し提出 意見でやすいよう工夫	管理者は、職員の利用者への支援の在り方や、業務の内容、勤務に関する要望などをアンケートで出してもらい、会議で検討し運営に活かしている。定期的に懇親会を開催し、風通しの良い職場環境づくりを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は実績を把握し評価している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内研修(グループ内) ・施設内での勉強会 ・法人外研修や交換研修の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内での施設間研修 ・法人外スタッフ交換研修 ・同業者が集まる意見会(交流会)への参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にセンター方式シートを参考に家族から伺い聞きとりしている(例えば 入浴は同性支援が良いなど)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居され間もない期間は ・電話 ・郵送 ・メール など家族の生活に合わせ細かく連絡している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に家族と面談や関係者から情報収集に努め必要な医療との連携(整形・眼科・メンタルなど) や他のサービスの活用も含めた相談に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に裁縫を教えてもらったり、漬物の漬付け方を教えてもらいながら漬けたり 生活の場で教えてもらうことも多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まず 家族の希望を聞き 何を希望されているのか？意味や想いを本人の支援に活かせるよう築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店街・花屋・コーラス(サークル)・神社などにいけるよう努めている	家族や友人などの訪問を快く受け入れる対応を心掛けている。。個別の居室担当職員が馴染みの店や美容院などへ同行支援している。入居前からのコーラスサークルに継続参加の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ビール・カラオケ・漬物漬け・張り絵・コーヒ一会 好きなことで関わり合えるよう「会」を工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葉書やメールにて様子を伺い連絡をいただいたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・カンファレンスでの検討 ・家族からの聞き取り ・居室担当制の反映	利用者ごとに担当職員を決めて、日々の関わりの中で本人の思いや意向をくみ取り、カンファレンスで情報を共有している。介護計画見直し前に家族との話し合いを通して、本人本位の援助に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式にての情報 ・家族との会話の中からの情報やヒント ・その他 関係者からの情報		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日昼寝をしていた、パンは焼かないほうがいい・昔は民生委員的な「役」をしていたなど把握に努めケアプランなどにも反映している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に家族へ希望や何か気になる点を伺うようにしている(郵送やメール活用) カンファレンスにて家族の意見も参考に話し合い介護計画を作成している	居室担当と毎月モニタリング、援助内容の評価・見直しを行い、サービス担当者会議を実施し、家族の意向も反映し介護計画は3か月毎に見直している。アセスメントにセンター方式も応用している。状況変化時や認定更新時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実行やその状況。 また状態の変化やできることなど気になる点を介護記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	骨折され退院後の支援など状態の変化にも柔軟に対応し家族と話し合い対応している 多機能化と言えるかは定かではない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流センター・障害センター・区民センターなど一緒に出向き開催している催しや図書コーナーなどを利用活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的にかかりつけ医、家族、事業所で面談 ・月 20日以上往診にて相談しやすく速やか ・事業所の裏がクリニックにて近い	本人及び家族の納得のもとに、利用者の多くは事業所近隣の、複数のクリニックの提携医の往診と外来受診により、適切な医療を受けられるように支援している。月2回、歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており 常に相談できる環境		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が常勤しており フリーで動ける体制をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、家族、事業所での面談を早い段階に行い家族の希望や意向、医師からの確認を行い終末期のあり方について話しあっている かかりつけ医からも積極的に面談の希望もある	入居契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を本人・家族に説明し、書面で同意を得ている。夜間緊急時も対応可能な医師の往診指示のもと、常勤看護師とスタッフ、家族の協働により、居室で看取りケアを行った事例が数回ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが 確認している 看護師を常勤配置しているため確認しやすい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	偶数月にミニ災害(勉強会)を実施。災害担当を決めスタッフ中心で行い 運営推進会議でスタッフが発表している (地域の防災訓練には必ず実施している)	年2回の火災想定避難訓練を実施している。隔月に災害時想定職員研修を行い、緊急時の対応の習熟を図っている。地域の防災訓練に参加し、協力体制作りに努めている。水や米、保存食等の備蓄もしている。	法定訓練のほか、ミニ自主訓練も積極的に実施されているので、火災、地震に加えて近年の豪雨による水害時想定訓練も実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ・対応について→自己チェックリストなど配布しスタッフに意識付けや確認を行っている 家族からの意見も前向きに受けるよう話し合いや面談をしている(指導)	利用者個人の尊厳を大切にした対応をカンファレンスで話し合い、年長者に対する言葉使いやマナーなど、自己チェックリストで確認を促す取り組みもしている。排泄や入浴の支援では特にプライドに配慮し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当スタッフが中心に会話の中から希望を伺ったり またさぐるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「お一日は神社に行きたい」「美容院」「日曜コーラス」など365日毎日厳しいがくみとるようにしている。往診日など行けない日は他の日に振り返るなど対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落に気を使われる入居者・家族多く、好きな色や服、カットカラーなどこだわりを大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1F食器の洗い物、ワゴンで運ぶなど入居者に役割をもってもらい「食」そのものへの興味が増すよう働きかけている	業者配送の日替わりメニューの食材を担当の職員が調理し、汁物も添えている。下膳や洗い物、片付けは利用者と共に行っている。お好み焼きやサンドイッチなどを利用者と一緒に作る時もあり、生活に変化をつけ、食事の楽しみに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活の場では体重管理や摂取量分析などにて状態を管理（かかりつけ医の定期的な採血から参考にする場合もある）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを活かしてオムツよりリハパン。リハパンよりパンツと自立に向けた支援や考え方をしている	利用者個々の排泄状況を記録しパターンやリズムを職員が把握共有して、事前にさりげなく誘導することで、改善や自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ヨーグルト・牛乳・バナナなど個々の対応 ・水分や腹部マッサージなど看護師と相談しコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	内科往診・歯科往診などから予め予定はしているが当日の体調や拒否など入居者の状態を優先し配慮している(振り替えや時間帯変更)	浴槽は2方向介助可能で、個浴である。週3回は入浴を確保しながら、希望や体調に合わせて曜日、時間を変えて促すなど、気持ちよく入浴できるような支援をしている。誕生日に「バラ浴」で花と香りを楽しむサプライズの企てなども試みている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・高齢や状態(体力面)から昼寝が必要であれば臥床時間確保など対応している ・ベッドより床の習慣の方へはそれぞれに合わせた対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用までの理解はできていないが、食思低下や表情など状態の変化に対して気づきや検討ができる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞取り込み、食器洗い、ワゴン運搬など役割を持って頂いている。またやりがい・目標ができるよう役割に対してスタンプ券を発行して(ビール券・コーヒー券なども)張り合いがもてるよう工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日 全員に希望には添えていないが定期的に図書館、喫茶店、交流センター、コーラス、神社、美容院など会話の中から希望をさぐりながら企画している	居室担当スタッフが希望を確認し、近くの神社や公園を散歩したり、図書館、美容院、外食など、時に家族や外部の協力も得ながら利用者とともに出かける機会を作っている。尼崎や大阪駅のモール街や十三周辺まで買い物に同行することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の買い物などで使用できる金額を家族と話し合い事業所管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙を書かれ毎日ポストに投函している ・電話希望→かけていただいている またよく友人からかかってくる(とりついでいる)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関 共用部と広い空間であり花のレイアウトなど明るく・シンプル(清潔感)を意識している 見学者からは「4年たつが綺麗」との声多い	リビング兼食堂、台所を中央に動線よく配置し、リビング両側の掃き出しサッシ窓外のベランダにプランターの植栽を置き、採光もよい。居室やトイレ、浴室につながる廊下は広く、レトロな映画の写真集なども飾り、くつろげる雰囲気工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2~3人かけのソファを玄関、廊下、多目的ホールに設置。ゆったり過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅のお部屋に近いイメージで家族に協力を得ている。馴染みの物、好きな色、グッズなど個性ある居室になっている	居室入口に入居者の名前を花の写真に入れて表札にしている。エアコン・クローゼット・カーテン・ナースコールを設置し、各自なじみのベッドや調度品などを置き居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に対して危険と想定する箇所の改善や工夫については都度検討し対応している		